

新さっぽろ駅周辺地区 G・I 街区まちづくり計画概要（平成 29 年 1 月提出時点）

本計画の果たすべき役割

- 既存商業と連携した**特色ある商業エリアづくり**
- 駅周辺地区の**歩行者ネットワークの形成**
- 国・北海道・経済団体と連携した「オール北海道」体制での**産業振興**
- 札幌の経済を担う**人材育成**
- 利便性を活かした「**観光**」・「**健康**」・「**食**」の拠点づくり
- 定住人口増加に寄与する**居住空間の創出**
- 地域住民が**生き生きと活動する場の創出**
- **エリアマネジメント**による持続可能なまちづくり

まちづくりコンセプト

活彩都市

彩り豊かな7つの成長エンジンがまちをつくる



まちづくりのポイント



独自性の高い
まちづくり

大規模なモールのテナント構成のような**画一的ではなく**、新さっぽろを特徴づけるような「**食と健康**」をテーマにしたテナント（用途）で構成する複合用途



発展する
まちづくり

既存のまちづくりの骨格（駅前商業、駅南側の公共文化ゾーン、駅北側の福祉ゾーン）に肉付けするような配置計画



既存商業と共に創る
まちづくり

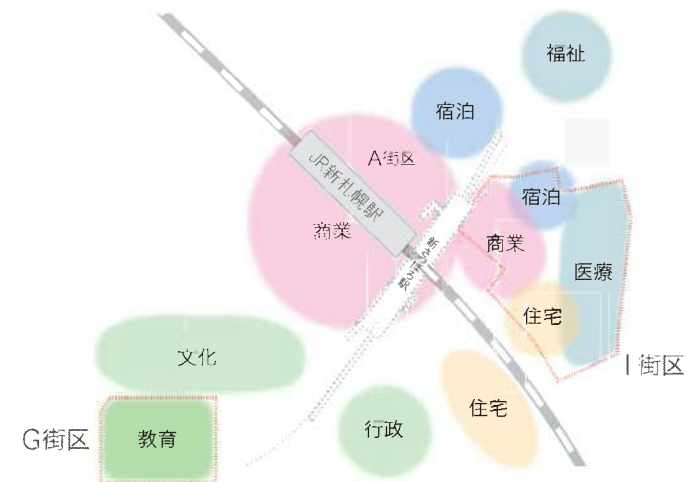
商圏分析を行い、**既存商業と共存可能な適正規模・業種業態**での商業開発を行う



全国的に先駆けとなる
先導的なまちづくり

駅前に商業・ホテル等の機能だけではなく、まちなか医療の視点で**生活の質を高める施設**（住宅・365日24時間対応の医療・産業創出のための産学連携施設）を**本格的に整備**する

ゾーニングイメージ



G街区の計画方針

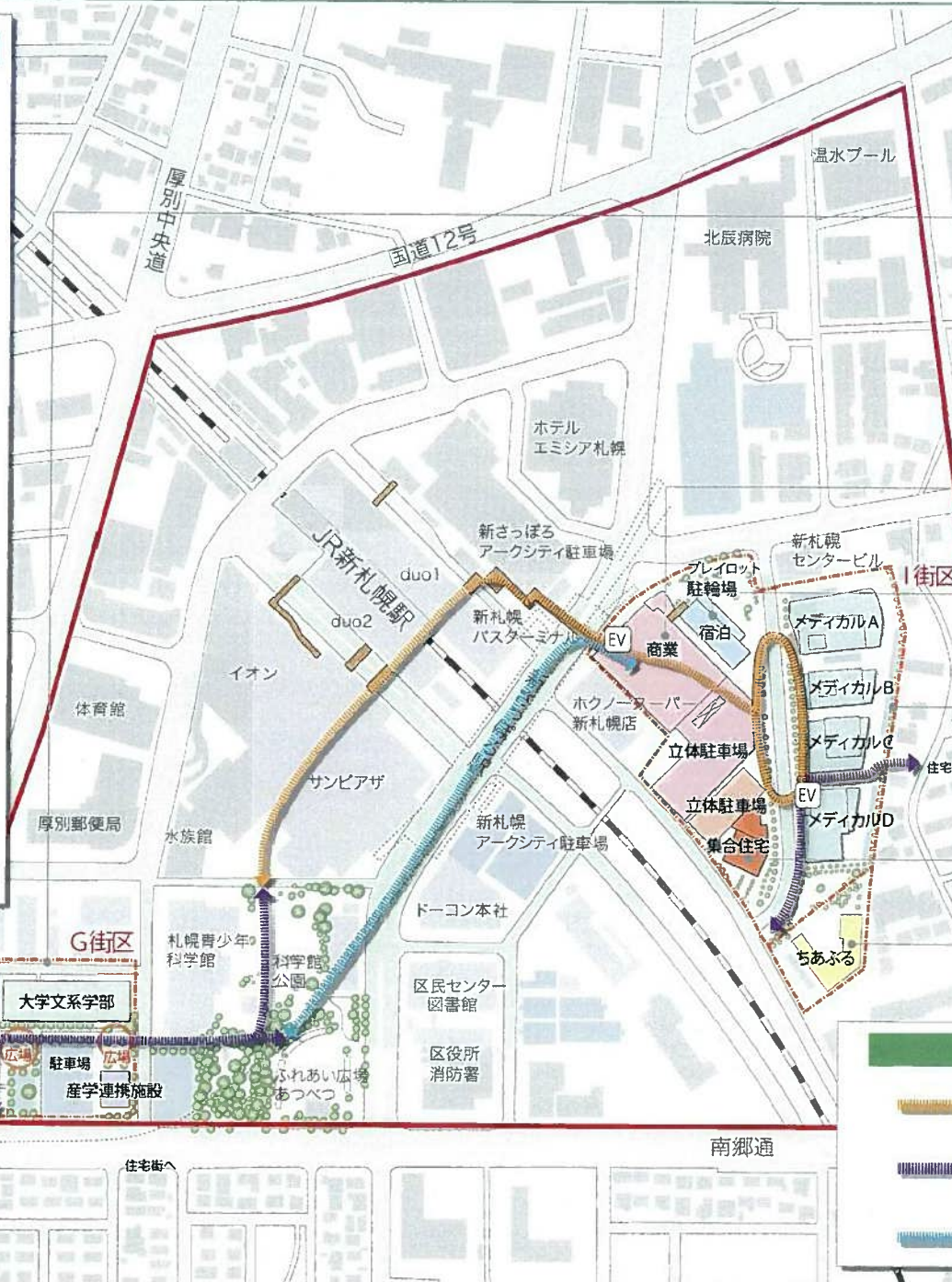
- ・4年制大学等(看護系・心理・ビジネス系 など)
 - ・産学連携施設(多目的ホール など)
 - ・生涯学習施設(図書館・語学学習施設 など)
- 地域貢献施設として地域に開放を予定



産学連携施設(多目的ホール)のイメージ



図書館・語学学習施設のイメージ



来街者想定

教育
約23万人/年
(産学連携施設を含む)
約1,500~2,000人/日
(広場・公園とG街区の往来)
※現時点の大学・産学連携施設の利用者 大学生 研究者 社会人(若者)

産学連携
大学生・院生 (共済得意受領) (通内大学セテラ)での学友紹介
高校生 (通内大学セテラ)での学友紹介
比隣企業等事業者 (各大学保有技術)の確認・相談
地元就職セミナーへの参加 (高校生・大学生・院生) 社会人向けセミナー、社会人大学などのセミナー(教員参加等) (北海道大学、北大COI(食と健康)等で実施)

商業
約380万人/年
多世代の地域住民・来街者

宿泊
約8万人/年
道内旅行者・ビジネスマン

医療
約58万人/年
患者 見舞客 検診利用者 病院長等(働く) 各種学会・病院関係者(働く) イベント参加者

住宅
約18万人/年
子育て世代 独り暮らし 若者 高齢者

子育て
子育て世代

歩行者ネットワーク

- 2階レベルネットワーク
- 地上レベルネットワーク
- 地下レベルネットワーク

■ ふれあい広場・科学館公園再整備と、G・I街区開発計画（平成29年1月提出時点）



**駅からG街区・周辺のまちへの
歩行者回遊空間**

- ふれあい広場・科学館公園は、G街区・新さっぽろ駅（新札幌駅）・I街区をつなぐ位置にあり、駅周辺の賑わい創出・回遊性向上に重要な空間





科学館公園と一体的な動線として「キャンパスプロムナード」が整備されたG街区（提案時）




公園・広場・G街区のオープンスペースが一体的な空間として連携

- ふれあい広場・科学館公園と一体的な広場空間を形成すべく、G街区のオープンスペースを計画
- エリアマネジメントの取組における一体的な利活用も検討

 G・I街区開発にて整備する空間
 既存のオープンスペース